

各 位

会 社 名 スパークス・グループ株式会社
 代表者の役職名 代表取締役社長 阿部 修平
 (コード 8739 JASDAQ スタンダード)
 問い合わせ先 経営管理部長 峰松 洋志
 電 話 番 号 0 3 - 6 7 1 1 - 9 1 0 0

平成 25 年 3 月期 業績と前期業績との差異及び 特別損失の発生に関するお知らせ

1. 平成 25 年 3 月期の連結業績（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）と平成 24 年 3 月期の連結業績（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）との差異

(百万円未満切捨て)
 (%表示は対前期増減率)

連結経営成績	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
25 年 3 月期 (B)	3,767	△843	△568	△2,203
24 年 3 月期 (A)	4,493	△1,413	△1,262	△4,539
増減額 (B-A)	△726	570	693	2,336
増減率 (%)	△16.2	—	—	—

(△は、損失またはマイナスを示しております)

当連結会計年度末における当社グループの運用資産残高は、前期末に比して金額で 1,327 億円、比率で 24.7%増加して 6,693 億円となりました。しかしながら、運用資産残高の増加は年度の終盤に集中して生じたものであり、年度全体を通じての平均運用資産残高は前年度を下回るものであります。また、日本株が上昇する過程においても、一部の国内顧客には日本株に対するエクスポージャーを下げる好機と捉えた解約の動きが先行したこともあり、当連結会計年度における業績の回復は十分なものではありませんでした。結果、当連結会計年度における残高報酬は前期比 18.5%減の 31 億 53 百万円となりました。また、成功報酬も、前期に比べて韓国株式の投資戦略に係る計上が大きく減少し 40 百万円（前期は 4 億 54 百万円）となりました。その他収益は、幾つかのアドバイザー業務等に係る報酬が生じたことにより大幅に増加し 5 億 73 百万円（前期は 1 億 67 百万円）となりましたが、残高報酬と成功報酬の減少をカバーするに至らず、営業収益は同 16.2%減の 37 億 67 百万円となりました。

営業費用及び一般管理費に関しては、同 22.0%減の 46 億 10 百万円となりました。これは経営環境と収益状況を直視し、大幅な固定費の削減により損益分岐点の引き下げを実現した他、前連結会計年度において SPARX Asia Capital Management Limited ののれんを全額減損したことによるのれん償却費や運用資産残高に連動する支払手数料が、それぞれ減少したこと等によるものです。

この結果、営業損失は 8 億 43 百万円（前期は 14 億 13 百万円の営業損失）、経常損失は 5 億 68 百万円（前期は 12 億 62 百万円の経常損失）となりました。

さらに、保有投資有価証券の減損及び売却により特別損失 14 億 31 百万円を計上し、香港孫会社における移転価格税制に係る税務債務につき、直近の香港税務当局の見解等を踏まえた見積りによって過年度法人税等 3 億 20 百万円を保守的に追加計上した結果、当期純損失は 22 億 3 百万円（前期は 45 億 39 百万円の当期純損失）となりました。

（注）当連結会計年度末（平成 25 年 3 月末）運用資産残高は速報値となっております。

2. 平成 25 年 3 月期の個別業績（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

(1) 平成 25 年 3 月期の個別業績と平成 24 年 3 月期の個別業績（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）との差異

個別経営成績	(百万円未満切捨て) (%表示は対前期増減率)			
	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
25 年 3 月期 (B)	388	△7	841	△8,655
24 年 3 月期 (A)	491	△31	1,022	△2,463
増減額 (B-A)	△102	24	△180	△6,191
増減率 (%)	△20.9	-	△17.7	-

（△は、損失またはマイナスを示しております）

関係会社業務受託収入等により、営業収益は 3 億 88 百万円（前期比 20.9%減）となりました。営業費用及び一般管理費に関しては、当社グループ一体となったコスト削減への取組みによって固定的経費の更なる削減を達成したこと等により、3 億 96 百万円（同 24.3%減）となりました。その結果、営業損失は 7 百万円（前期は 31 百万円の営業損失）となりました。

主として子会社からの受取配当金により経常利益は 8 億 41 百万円（前期比 17.7%減）となりましたが、特別損失に計上した関係会社株式評価損 78 億 59 百万円、投資有価証券評価損 11 億 93 百万円等により、当期純損失は 86 億 55 百万円（前期は 24 億 63 百万円の当期純損失）となりました。

(2) 関係会社株式評価損の内容

当社が保有する関係会社株式のうち、連結子会社である Cosmo Asset Management Co., Ltd. の株式及び SPARX Overseas, Ltd. の株式について減損処理を行い、2 銘柄合計で 78 億 59 百万円の関係会社株式評価損を特別損失として計上いたしました。

上記の関係会社株式評価損につきましては、連結決算上は消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

以 上